# 穴部・国府津線の発掘調査成果速報！

# 小田原市 №271 遺跡

## （下堀塚田町）

## 建物群の広がりを発見！

小田原市 №271 遺跡の発掘調査

下堀地区に所在する№271 遺跡は、小田原土木事務所による都市計画道路 穴部･国府津線街路事業に伴う埋蔵文化財の記録保存として、発掘調査を実施しています。

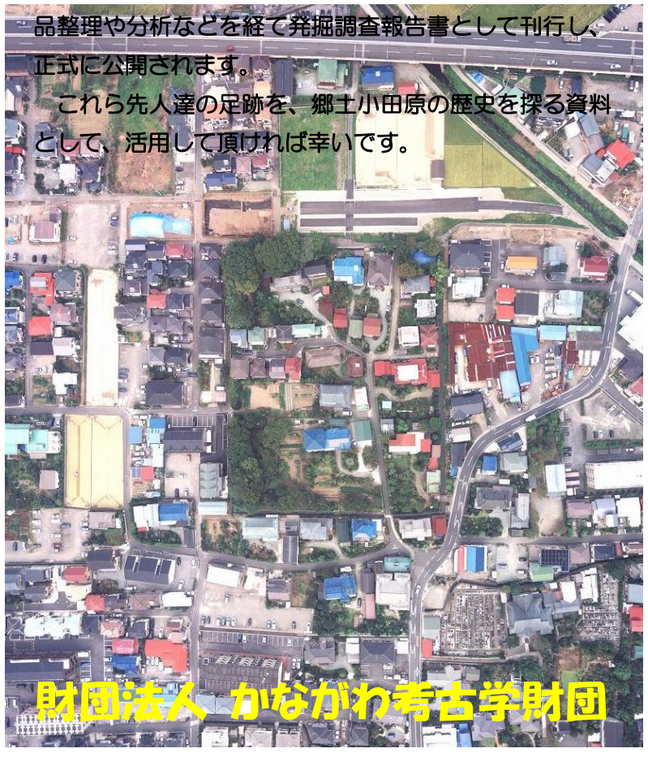
調査区は、中世の方形居館と言われている屋敷地の北西側にあたります。お屋敷は、堀と土塁が長方形にめぐる大規模なものです。前回の調査によって、堀が北側では二重にめぐることが明らかになりました。

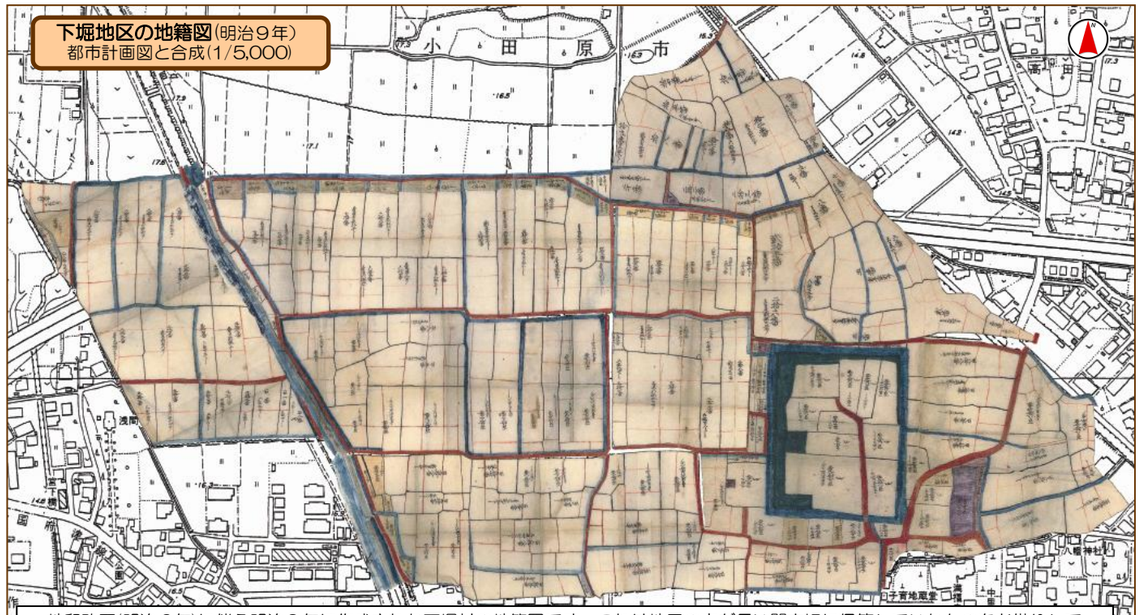
今回の調査では、柱穴や溝など居館の西側に広がる関連施設と考えられる遺構が発見されています。

柱穴などは小規模な遺構ですが、遺跡の広がりを捉える上で貴重な発見です。

これまでに発見された遺構や遺物などは、今後の出土品整理や分析などを経て発掘調査報告書として刊行し、正式に公開されます。

これら先人達の足跡を、郷土小田原の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。




地租改正(明治６年)に伴う明治９年に作成された下堀村の地籍図です。これは地元の方が長い間大切に保管していたものをお借りして、写しをとらせて頂いたものです。この地籍図は、字毎に７枚あるものを貼り合わせ、現在の地図と重ねました。他に表現の見本となる凡例などがあり、それに基づいて、田・畑・宅地・道・上知・社などが色分けされています。

**地籍図**　水田と道(茶色)で表現された道を見ると、約 100m 四方の正方形区画が整然と広がっていることがわかります。当時の水路(青色)を見ると水流と区画が現在とほとんど変わっていないことに驚かされます。余白には家が 17 軒・人口は 102 人と記載されています。下堀方形居館を見ると、水路と山林野地を示す緑色に囲まれています。緑色部分は東側で幅が狭くなっていますが、東西南北それぞれの面に植林が表現されていることから、土塁やその痕跡が四方に残っていた様子を示していると思われます。

遺構検出状況

溝の調査状況

包含層遺物出土状況

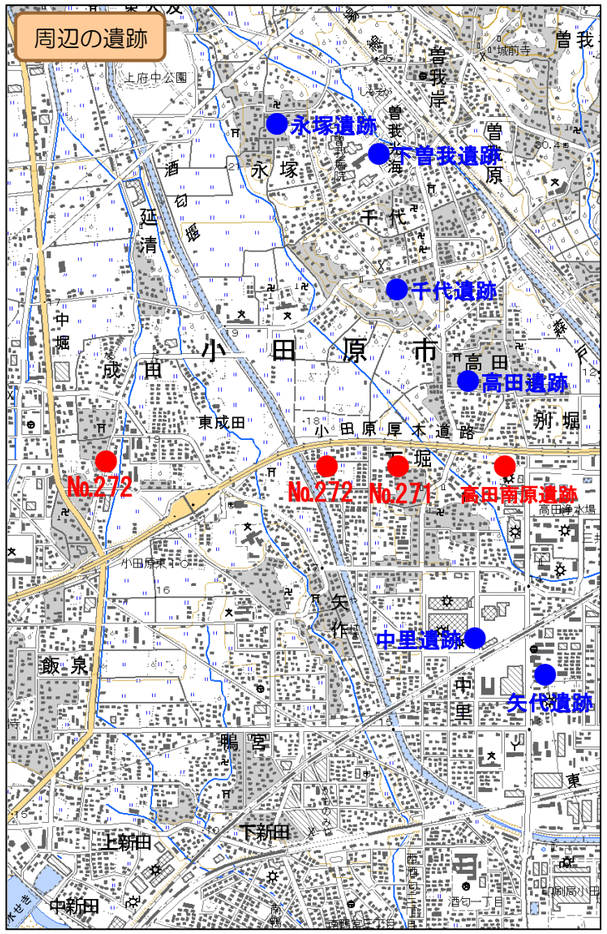
掘立柱建物検出状況

井戸の調査状況

井戸遺物出土状況

| おおよその年代 | 紀元前３万年 | 紀元前１万年 | 紀元前 400 年 | 250 年 | 700 年 | 1200 年 | 1600 年 | 1900 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 旧石器時代 | 縄文時代 | 弥生時代 | 古墳時代 | 古代 | 中世 | 近世 | 近代 |

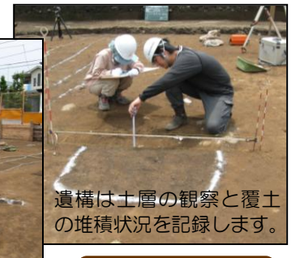
←→ №271 遺跡




周辺には、千代遺跡(縄文～古代)・中里遺跡(弥生)・三ッ俣遺跡(弥生～近世)など神奈川県を代表する各時代の著名な遺跡が多数所在します。

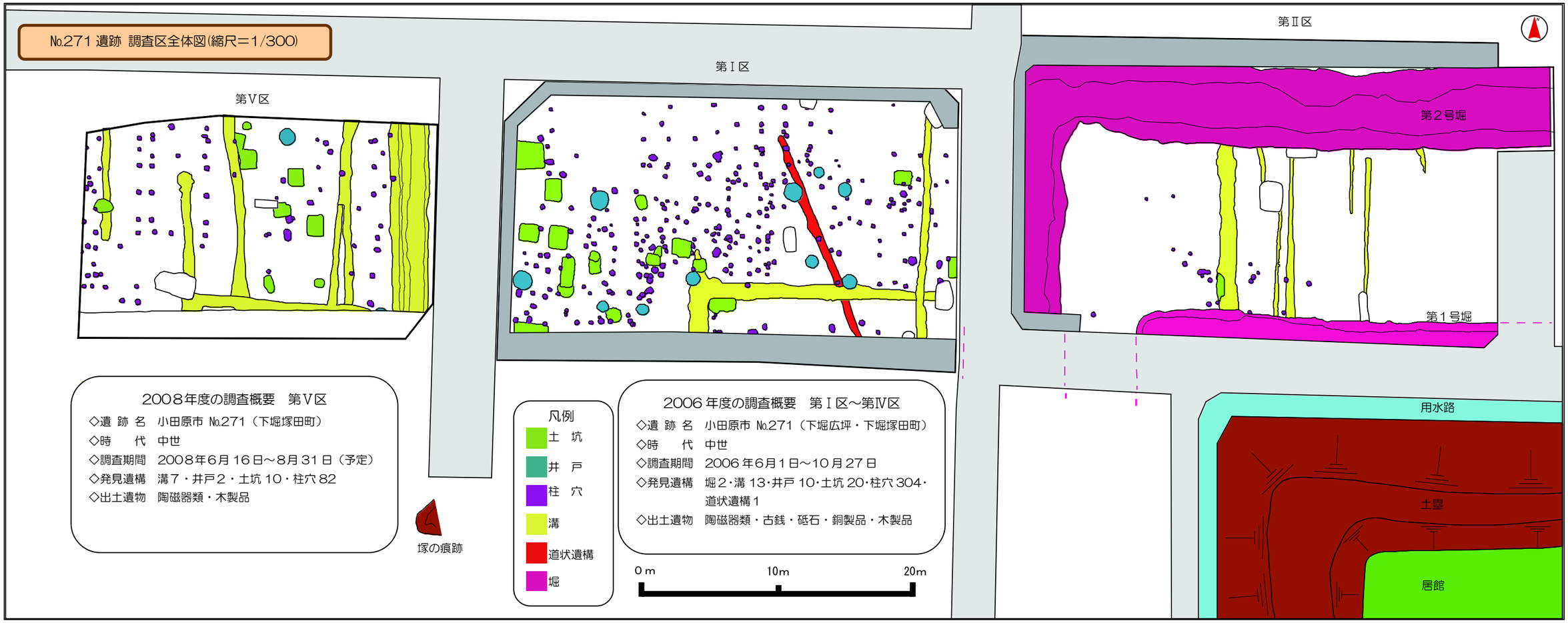
今回の調査成果は、成田上耕地遺跡や高田南原遺跡など周辺の遺跡とあわせて分析していく必要があります。

発見された遺構は、写真や測量などの記録をとります。


遺構は土層の観察と覆土の堆積状況を記録します。

測量・記録作業

穴部･国府津線の発掘調査成果速報
小田原市 №271 遺跡
2008.7.13
財団法人 かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
TEL 045-252-8689　http://kaf.or.jp/




2008年度の調査概要　第Ⅴ区

◇遺 跡 名　小田原市 No.271（下堀塚田町）
◇時　　代　中世
◇調査期間　2008年6月16日～8月31日（予定）
◇発見遺構　溝７・井戸２・土坑10・柱穴82
◇出土遺物　陶磁器類・木製品

2006年度の調査概要　第Ⅰ区～第Ⅳ区

◇遺 跡 名　小田原市 No.271（下堀広坪・下堀塚田町）
◇時　　代　中世
◇調査期間　2006年6月1日～10月27日
◇発見遺構　堀２・溝13・井戸10・土坑20・柱穴304・道状遺構１
◇出土遺物　陶磁器類・古銭・砥石・銅製品・木製品

〔2008年度の調査成果〕

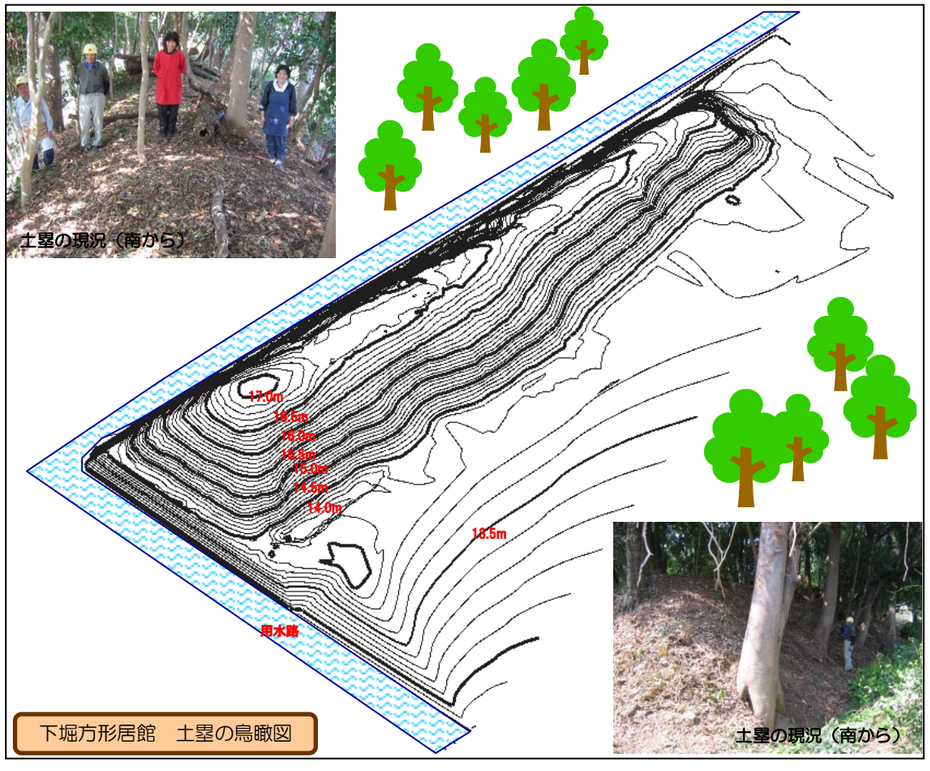
◇ 今回の調査区(第Ⅴ区)は、方形居館の北西部にあたります。82 基の柱穴の他、井戸･土坑･溝などが発見されています。柱穴は長方形に配置されているものなどがあります。これらは掘立柱(ほったてばしら)建物と呼ばれるもので、これまで発見されているものと合わせるとかなりの数の建物があったと考えられます。

◇ 建物の具体的な用途などは、出土遺物に恵まれないためわかりませんが、居館と隣接する場所は、関連する施設や関係者の居住域など、計画的な土地利用が行われていたと考えられます。

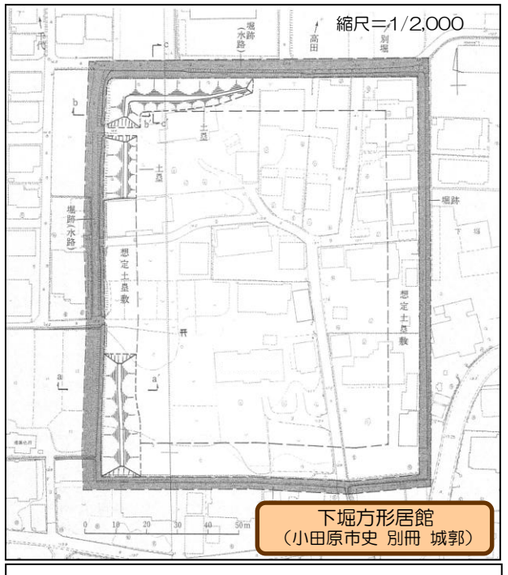
〔2006年度の調査成果〕

◇ 東側の第Ⅱ区では、方形居館の堀が二重に巡っている事が明らかになりました。第１号堀は、内堀にあたると考えられ、土塁の裾から７mの幅を有しています。居館の北西部では、土塁に沿うようほぼ直角に南へ屈折していると思われます。

◇ 第２号堀は、幅６m前後・深さ 1.3m の規模で、外堀にあたると考えられます。第１号堀と同様に居館北西部でほぼ直角に南へ屈折しています。北側では、第１号堀と第２号堀の間隔は、約 13m空いています。




下堀方形居館　土塁の鳥瞰図




下堀方形居館
（小田原市史 別冊 城郭）

下堀方形居館の概要

◇立地　足柄平野　酒匂川左岸標高 14m の低地平坦部
◇規模　東西 103m・南北 129m　南北に長い長方形
◇土塁　敷幅 14m・上幅 2m・高さ 3.2m（いずれも最大値）
◇特徴　土塁は戦前まで四方に残る。南面の東部分が外側に少し膨らむことから出入り口の可能性が考えられる。